

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画

人文学部

〔目標〕

人文学部では、人間や社会に関わる諸事象を多面的にとらえる柔軟な思考力と、中学校・高等学校の国語・社会・英語・ドイツ語・中国語・ロシア語などの教員に必要な専門的な知識とをバランスよく身につけた教員の養成を目指している。

〔計画〕

1年次より、様々な観点から人間に対する理解を深め、自立した市民として現代を生き抜く知見を広めることを可能にする科目を提供し、教員として必要な素養を習得できるようにする。2年次から4年次にかけては、専門教育とともに教職・教科の専門的学習を深めながら教育実習を行い、教員としての実践力を高めていく。

人間発達科学部

〔目標〕

人間発達科学部では、教育の本質・幼児児童生徒の理解と指導法・教科の専門的な内容をバランスよく身につけた実践力のある教員養成をめざしている。

〔計画〕

1年次から、教職の意義や教育に関する基礎理論等を学ぶと共に、学校や学校外の様々な現場で、子どもたちとかかわる体験学習を行う。2年次から4年次にかけては、教職・教科専門の学習を深めながら教育実習を行い、教師としての実践力を高めたり、自己課題を発見したりする教育課程を設定している。

経済学部

〔目標〕

経済学部では、経済学・経営学・法学の各分野についての専門知識や技能を修得させるとともに、それらを活かし、社会における諸問題について、生徒が主体的に考えられるよう指導できる教員の育成を目標とする。

〔計画〕

1年次には、経済学、経営学、法学の基礎を学び、2年次以降、各分野のより専門的な知識の修得を図る。また同時に、教職の意義、教科教育法など、教育職員として必要となる理論についても修得を図る。さらに4年次には、教育実習、教育実践演習にて、実践力の向上を図る。

理学部

〔目標〕

理学部では、数学および理科の教科指導力の基礎として、(1)教職の意義、教育の理論及び教科の指導法、(2)生徒指導に必要な協調性・自主性・責任感及び豊かな人間性、(3)自然科学全般に関する多面的な知見及び概括的な知識、(4)深い専門的学識に基づく論理的思考力と応用力、(5)専門的知識・技能を活用することで課題を探索し解決する能力や創造力、さらに真理を探索する姿勢、を身に付けた教員の養成をめざしている。

〔計画〕

1年次から3年次にかけては、教職の意義、教育の基礎理論、教育課程及び指導法に関する科目、生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目、及び基礎セミナー、数学または理科教員に必要な、それぞれの教科に関する科目としての専門基礎科目及び専攻科目を受講することにより、教員としての資質と能力を養う。4年次では、教育実習とその事前・事後指導及び教育実践演習に加えて、卒業研究を実施することにより、教員としての資質と能力を高める。

工学部

〔目標〕

工学部では、ものづくりに関して基礎から先進的な応用に至るまでの教育を実施し、知の創出と創造の実現に向けて、工学的な教育を受けた教員を高校の現場に輩出することを目標とする。

〔計画〕

1年次では、学習への動機づけを行うとともに、専門知識がどのように製品設計に寄与しているかを理解する。2年次から4年次にかけては、教職の意義や職業指導及びキャリア教育等を学ぶとともに、創造力や問題解決力などのものづくり基礎力とコスト・信頼性・安全性などのものづくり実践力を育成する。

芸術文化学部

〔目標〕

芸術文化学部の教職課程においては、教職を志望する学生に、地域の芸術文化に根ざした基礎理論を修得させ、美術教育をとおして、次代の芸術文化を創り上げていく立場の子供たちに伝えることのできる人材の育成を目指している。このため、美術の教科指導力の基礎として、次のような能力・知識を身につけさせることとしている。

- ・芸術文化に関わる感性・知識・技術に裏打ちされた創造性を発揮して、豊かな社会の発展に寄与するものやことを創り出す能力
- ・遭遇する環境において、問題を発見し、調べ、解決策を見いだし実践できる能力
- ・豊かな人間性と人類知継承のための、自然・社会・文化・人間についての教養
- ・これからの社会における芸術文化の調和的発展に貢献できる能力

〔計画〕

目標を達成するため、次のような教育を実施する。

- ・芸術文化の新しい価値を作り出す創造力の育成に重点を置いた多面的な教育
- ・自己を取り巻く社会の様々な環境を理解し、多角的に物事を見つめ判断できる知識を身につけさせるための教養科目及び学部共通科目
- ・豊かな人間性を築くための、人文科学、社会科学、自然科学系などの教養教育科目、専攻分野を越えた学部共通科目、基幹科目及び展開科目